

# 本庁職員を佐織支所に派遣しては

中村 文武議員

適正配置している、検討していない  
企画政策部長



**問** 佐織支所の混雑対策。本庁職員を週1回配置しては。

**答** 繁忙期の待ち時間の発生は、支所に限らず本庁舎でも同様であり、来庁者には不便をかけている状況は十分認識をしている。本庁職員を派遣することは考えていない。

**問** あいさい笑鵬公民館の職員を応援対応させては。

**答** 通常業務に支障があるため考えていない。

**問** 公民館の若い職員はローテーションで各課を異動するので、佐織庁舎の対応をすることでスキルアップにつながり、ウィン・ウィンになるのではないか。予算もかからない、取り入れては。

**答** 各部署では責任を持って遂行すべき業務を限られた人員で対応しており、他の部署へ応援派遣は、本来業務の停滞を

招くおそれもあり、導入には課題がある。

## 中学校の運動場開放は

**問** 子ども達の遊び場が無い。月木は部活動がない学校を開放しては。

**答** 校長会での協議では、中学校のグラウンドの開放は現在考えていない。

**問** 佐織体育館は当日利用ができる。バスケットゴールを復活させては。

**答** 令和3年の施設に関する要望調査から現在に至るまで、佐織体育館のバスケットゴールの購入に係る要望がないことから、バスケットゴールの購入は考えていない。

**問** 子ども達の遊び場とつながるが、佐織庁舎の跡地利用について、今の検討状況は。

**答** 本市の将来のまちづくりを見据える上でもポテンシャルの高い土地であるため、中長期的な視点から最適な活用方法について慎重に検討を進める。

**問** 佐屋小グラウンドを何とかしてほしい。なぜ石が出てくるのか。

**答** クラス対抗石拾いの実施などに取り組んでお

り、教員及び児童・保護者などからグラウンドの石でけがをしたなどの報告は受けていない。

毎年、全小・中学校を対象に、海部教育事務所長や教育長、教育委員等で学校施設の状況等を確認している。  
地盤沈下の影響や降雨、排水の流れによるものだ。



▲佐屋小学校から掘り出した石